

編集後記

私は2023年4月から、川廷宗之前編集委員長の後を引き継ぎました。本号は、基本的には前編集委員長の下で進められてきた成果です。これから「職業教育研究」をどのように進めるのかについては、今後、さまざまな環境の変化に即して考えなくてはならないと思います。

例えば、長引いた新型コロナ禍の影響は、日本の職業構造そのものを揺るがしました。それに伴い職業教育の状況も厳しさを増しています。政治経済によって覆い隠されていた人口構造の現実が露わになり、少子化対策という言辞が悲鳴のように発せられています。しかし、日本の人口は戦後ベビーブームの抑制を図った時から、今日まで一貫した人口転換を続けてきました。この変化を乗り越える戦略は、ニューノーマルというキーワードで、漠然と示されています。しかし、これを具体的に「職業教育研究」を進めるかということになると、さまざまな課題山積です。

とかく職業教育に携わる人々は、業務独占型の「専門職」の育成をモデルにしてきました。しかし労働市場自体が縮退する中では、その担い手を確保することが難しくなります。労働市場を拡大するためには国際労働市場まで見据える必要があります。ILOのような国際機関は、世界は「ケア経済」の段階に入り、それを支えるケア労働力の確保は各国共通課題になっていると分析しています。つまり、自国の専門職資格を維持するためには、国際競争と国際調和化という課題に取り組まなければならないのです。

本号の巻頭には、玉川大学の坂野慎二氏の総説を掲載しています。ドイツの理学療法士の職業教育をめぐる論考です。世界中で進められている職業教育と学校教育の統合や学位や職業資格の国際的調和化という課題は、国際的な労働市場に日本が取り組む上でも重要な論考です。その他本号は、原著論文2、事例報告1、研究ノート6、加えて敬心・研究プロジェクト報告2を掲載しています。いずれも示唆に富んだ論考です。

今やChat GPTが活用される時代を迎えてますが、現場に立つ者にしか分からないデータ収集と分析こそがオリジナリティの根拠であるという事実は変わりません。職業教育に携わる方々は、学生に対してどのような分野について、どのようなレベルの職業遂行能力を育成するのか、それに必要な知識水準と技能水準はどのように設定して、その達成度をどのような方法で評価するのかが問われています。このような日常業務から発生するデータこそが「職業教育研究」にとっては大切な資源です。ぜひ、こうしたデータに基づく論考をご寄稿ください。

(編集委員長 小川 全夫)

本誌元編集委員長が立ち位置を変えられて、客員研究員であると同時に学術顧問として私どもへのご指導をいただくこととなりました。そして、新委員長の小川全夫先生のもと、7年目を迎えた弊ジャーナル、これまで同様、以上の活用をいただけますと幸いです。

私自身は本誌事務局担当をして5年となりましたが、いつになってもこの発行直前は、何か過不足はないか気になり、また関係者への感謝を改めて感じる時期になります。研究発表に向けた執筆者各位の真摯な姿勢を感じ、査読委員をはじめとする発行に関連する様々な委員の先生方のお力添えによるものです。

アフターコロナと言うにはまだ時間がかかりそうな、感染状況の推移もまだ気になる昨今ですが、皆さまの研究発表の場として、本誌をご活用いただきますと共に、弊学園のもう一つの発表の場、「第20回 職業教育研究集会」を10月21日（土）にオンラインにて開催、口演発表者を募集いたしますので、ご検討いただけますと幸いです。

(編集事務局担当 杉山 真理)

— 「敬心・研究ジャーナル」査読委員一覧 (50音順: 敬称略) (2023. 6. 1現在) —

阿久津 摂	安部 高太朗	天野 陽介	伊藤 正裕	稻垣 元	井上 修一
今泉 良一	上野 昂志	王 瑞霞	大川井 宏明	大谷 修	大谷 裕子
岡崎 直人	小川 全夫	奥田 久幸	小澤 由理	小閑 康平	川廷 宗之
菊地 克彦	木下 美聰	近藤 卓	坂野 憲司	佐々木 清子	佐々木 由恵
島末 憲子	島津 淳	白川 耕一	白澤 政和	杉野 聖子	鈴木 八重子
高塚 雄介	武井 圭一	東郷 結香	永嶋 昌樹	橋本 正樹	浜田 智哉
町田 志樹	松永 繁	水引 貴子	南野 奈津子	宮嶋 淳	八城 薫
安岡 高志	行成 裕一郎	吉田 志保	吉田 直哉	渡邊 真理	

— 「敬心・研究ジャーナル」学校法人敬心学園 編集委員会 (2023. 6. 1現在) —

委員長 小川 全夫	(職業教育研究開発センター、九州大学名誉教授、山口大学名誉教授)
副委員長 阿久津 摂	(日本児童教育専門学校)
学術顧問 川廷 宗之	(大妻女子大学名誉教授)
委員 小泉 浩一、黒木 豊域、浜田 智哉	(日本福祉教育専門学校)
阿部 靖、柴田 美雅	(日本リハビリテーション専門学校)
王 瑞霞、天野 陽介	(日本医学柔整鍼灸専門学校)
有本 邦洋	(東京保健医療専門職大学)
水引 貴子、木下 美聰	(客員研究員)
事務局 杉山 真理、宮内 綾子	(職業教育研究開発センター)

〈執筆者連絡先一覧〉

ドイツ高等教育の拡大と多元化

— 医学健康科学領域の専門大学への移行 —

玉川大学教育学部 坂野 慎二

脳血管障害者の疾患特異性 QOL 評価にはスピリチュアリティに関する項目が含まれているか
東京保健医療専門職大学リハビリテーション学部作業療法学科 坂本 俊夫
〒135-0043 東京都江東区塩浜2-22-10
E-mail: t-sakamoto@tpu.ac.jp

「自立支援」のための介護福祉と ICF (国際生活機能分類)
大妻女子大学名誉教授、職業教育研究開発推進機構
川廷 宗之
E-mail: kawatei@keishin-group.jp

旧優生保護法に係る控訴審判決

— 東京高裁2022（令和4）年3月11日 —
日本社会事業大学 梶原 洋生
〒204-8555 東京都清瀬市竹丘3-1-30

コロナ禍で行う地域リハビリテーション活動支援事業の課題とは
— 介護予防活動参加者および主催者に対するアンケート調査より —
介護老人保健施設 ハートケア湘南・芦名 リハビリテーション科 小武海 将史
〒240-0104 神奈川県横須賀市芦名1丁目16-12
E-mail: reha1@hc-ashina.jp

医療系専門職大学の教育的特徴の何がOT/PTを目指す学生の成長に影響を与えるのか
— 東京保健医療専門職大学（TPU）の第1期生と2期生に対するアンケート調査による検討 —
東京保健医療専門職大学リハビリテーション学部 作業療法学科 小野寺 哲夫
〒135-0043 東京都江東区塩浜2-22-10
E-mail: onodera408@tpu.ac.jp

促通による即時効果が実感できる運動プログラムの有効性

早稲田大学 非常勤講師 包國 友幸

加藤繁美の「対話的保育カリキュラム」に対応する「シナリオ型保育記録」の重層構造
大阪公立大学 吉田 直哉
〒599-8531 堺市中区学園町1-1
大阪公立大学大学院現代システム科学研究所
E-mail: naoya_liberty@yahoo.co.jp

職業教育と教養（普通）教育の違いに関する若干の考察その2.

職業教育における達成課題と評価（について）
大妻女子大学名誉教授、職業教育研究開発推進機構
川廷 宗之
E-mail: kawatei@keishin-group.jp

日本におけるダブルケア研究の動向と到達点

— 家族介護者支援の必要性とその難しさの視点について —
敬心学園 職業教育研究開発センター 客員研究員
河本 秀樹
E-mail: kawahide0415@gmail.com

多様性教育から見た介護福祉士養成課程における介護実習の現状と課題
— 多様性を生かした介護福祉教育方法の体系化を目指して —
敬心学園 日本福祉教育専門学校 齊藤 美由紀
〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-15
E-mail: m-saito@nippku.ac.jp

介護における「寄り添う」ことについての検討

敬心学園 日本福祉教育専門学校 宮里 裕子
〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-15
E-mail: miyasato@nippku.ac.jp